

2017年11月27日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 473

学事暦の再構築と教学運営の実際 2

～授業時間・時間割の設計と実務／学生・教員双方のメリット～

12月20日（水）開催

ご参画・ご派遣のお願い

教育・学修活動の実質化に向けた教学インフラ改革として、“学事暦の再構築”に取り組む大学が急増しています。“4学期制”がベースですが、“2学期6モジュール制”や“3学期制”での学事暦の創意工夫です。また、授業科目の特性によっては、セメスター科目や通年科目（ゼミ等）も併用されましょう。

1コマの授業時間、1日の時限数、1週間の時間割をどう再設計するかも重要テーマとなります。90分15週を100分14週に変更することは年間の学事暦において、内外の教育・研究交流面でも大いにメリット大といえます。一方、100分授業における学生の集中力や2単位科目のための週2回授業は非常勤講師には過重な負担となります。成績評価・判定回数倍の倍化も負担増です。つまり、教員・職員側にとっての長年にわたる学事に係る文化・習性の改革が求められます。

しかしながら、“学修成果暦”時代の高等教育において、何よりも短期集中学修は実効性大です。オフキャンパスプログラムである短期留学、サマーセッション、コーオプ教育（中・長期インターンシップ）等の企画・実施において、学生・教員双方にとってのメリット大であります。教学運営の全体システムの再設計のための創意工夫が急務となっております。

本セミナーでは、4大学のキーパーソン各位からは、導入経緯と含意形成、4学期制の具体設計と教学運営の実態、メリットと課題、そして今後の展開について報告をいただきます。

明治大学の千田亮吉氏には、2017年度より全学一斉での50分モジュール制100分授業、2学期4ターム制導入による“総合的教育改革”の全体像と取組み状況についてご講義を賜われます。

山梨県立大学の清水一彦氏には、長きにわたって教学運営・学事改革に取り組まれてきた学識から、学事暦の再構築における、基調となるご講義を賜われます。

広島大学の小澤孝一郎氏には、2015年度より「クォーター制（4学期）」を導入するに至った目的と概要、そして検証からみた今後の改善についてご講義を賜ります。

東北公益文科大学の神田直弥氏には、2017年から2学期制(セメスター制) から4学期制(クォーター制) に移行した背景と中長期留学の導入についてご講義を賜ります。